

令和元年度第2回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和元年 12 月 20 日（金） 13 時 30 分から 15 時 00 分		
会 場	市役所 3 階 議員控室		
出 席 者	谷口 芳紀	市長	
	浅井 昌平	教育長	
	萩原 喜樹	教育長職務代理者	
	小西 毅	教育委員	
	栗原 英子	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
説 明 員	玉田 直人	企画総務部長	
	宮崎 義正	教育次長（管理担当）	
	坂本 浩宣	教育次長（指導担当）	
	山本 哲也	学校教育課長	
	番匠 真由美	生涯学習課長	
	桑名 正彦	生涯学習課主幹	
	小西 まこと	体育振興課長	
	横山 和彦	人権教育推進室長	
	富田 大三	管理課副主幹（書記）	
傍 聴 者	なし		

教育次長（管）： 定刻となりましたので、令和元年度第2回相生市総合教育会議を開会させていただきます。本日の議事進行をさせていただきます、教育次長の宮崎でございます。よろしくおねがいします。

それでは、開会にあたりまして、市長よりご挨拶をよろしく願います。

谷口市長： 年末の大変お忙しいところ、総合教育会議に全員ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

寒い日が続きますが委員の皆様におかれましては、健康面に十分留意され、益々ご活躍されますこと祈念申し上げます。

また、各委員には平素より相生市の教育行政にご尽力いただき誠にありがとうございます。

さて、この総合教育会議も、今年で五年を迎えました。これまでの各委員の活発なご意見をいただきながらこの総合教育会議を開催してこれたからこそ、相生市の教育施策の充実に繋げてこれたものと確信しております。委員の皆様には豊かな経験に基づく幅広い視点で相生市の教育行政に引き続きご尽力をいただきますようお願いいたします。

一方、市の財政状況は引き続き厳しいものがありますが、将来の相生市を担う子供たちの教育については、今後も力を入れて参りたいと考えております。

さて、この総合教育会議は、今後の相生の教育についての大きな方向性を決定する場であり、非常に重要な場であります。各委員の忌憚の無い意見交換や今後に向けての調整をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

教育次長（管）： ありがとうございます。

さて、本日の会議ですが、今年度の相生市の教育に関する重点施策についてご協議をいただきます。

次に報告事項として、2点の報告をさせていただきます。

最後に、意見交換として、会議の出席者によります自由意見交換による、今後の相生市の教育についてご協議をいただき、約1時間30分を予定しております。

それでは議事に入らせていただきます。

次第の3 協議事項（1）相生市の教育に関する重点施策についての令和2年度の重点施策について事務局よりご説明いたします。

(管理課より機構順に事業概要説明)

- 管理課 「相生市教育振興基本計画策定」、「教職員用パソコン環境改善事業」
- 学校教育課 「小学校学習指導要領の完全実施」、「学校園読書活動充実事業」、「声かけ運動835（ハチさんゴー）推進事業」
- 生涯学習課 「国内英語留学（須崎市交流）事業」、「唐端清太郎没後100年事業及び那波野・若狭野古墳県史跡指定周年事業」
- 体育振興課 「(仮) 東京オリンピック・パラリンピックイヤー関連事業」
- 人権教育推進室 「ケータイ・スマホ教室」、「道德教育の充実」

教育次長（管）： これらの事業を令和2年度の重点施策として、教育施策の推進を図ってまいりたいと考えております。説明は以上です。

ただいまの説明について、ご協議をお願いいたします。ご質問等もあわせて受けさせていただきます。

谷口市長： どの項目からでも結構ですので、何かご質問、ご意見ございませんか。

谷口市長： 須崎市は、過去からこのような受け入れ事業をやっているのか。

教育次長（管）： 様々な体験学習等の受け入れを事業として行っております。

谷口市長： 声かけ運動835ですが、子どもが学校から帰るのが3時ということだと思うが、5時というのは部活等をした後の帰る時間ということか。

学校教育課長： この午後5時というのは、屋外に遊びに行った子どもたちが自宅に帰ってくるのが、5時ぐらいということです。

栗原委員： 声かけ運動835ですが、現在、あいさつ運動は時期を決めて、みんな外に立っているが、この835運動は継続して声かけをお願いするということですか。

学校教育課長： 通年で継続してお願いしていこうと考えております。

栗原委員： 年度の最初の呼びかけが肝心だと思うが、自治会をとおしてと言っておられましたが、どういった形で行うのか。

学校教育課長： 自治会の2月の総務会に835運動の依頼を行い、来年度4月からこの体制を築いていただきたいということをお願いしたいと考えています。

教育次長（指）： まず、1月の末に相生市の青少年健全育成市民大会があります。その時に来年度からの相生市の大きな動きとして、市民のみなさまにご紹介をさせていただき、協力を求めています。その後、学校教育課長が申しあげましたとおり、連合自治会のほうに協力を求めています。

栗原委員： 昔だったら、昼間や夕方には近所の方が表に出て、話をしているところに、子どもが通ってあいさつ等をしていたが、今だこの時間帯に声かけに出てきてくださいとお願いしても、お年寄りだけになると思う。また、自治会に依頼して進めると役があたっているからというように、形だけのものになってしまうかと思う。これは、学校があるときに限らず、土日も含めて外にでて、常に子どもに関心を持ってほしいと思うので、形だけにならないように根っこのほうから相生の子を守ってくださいということを進めていただきたい。

現在もボランティアで立ってくださっている方がいらっしゃいますが、あの方がやってくれているのであれば、それでいいかというようになっている。役割が決まってしまうとそれ以上のものになりにくいので、形だけにならないようにしていただきたい。

教育長： この活動は、負担が少ない運動ですので、何気なく家にいる人が外に出てきて、隣の人と立ち話でもしてもらえればと思っている。そういった形で子どもたちが動く時間帯に、地域の人が外にいるというような風土のようなものになっていけばいいのではないかと考えている。

これは、構えて運動としてやっていくようなことではないと思っているが、スタートはスタートして、しっかりやる必要があると考えておりますので、先ほど坂本次長が説明しましたように1月の青少年健全育成市民大会で決議していただき、組織的に広げていかなければならないと思っています。

できれば、それが風土のようなものになっていけばと思っている。

栗原委員： 地区の学校の子どもの数も知らない人が多いので、子どもに関心を持ってもらって、地域の人意識を高めていただければと思います。

谷口市長： 相生地区のあいあい広場には、子どもたちが集まっていますよね。

栗原委員： 今でも集まっていますが、相生地区の子どもの数が少ないですので、夏休みは多いですが、平日は少ないですね。

栗原委員： 国内英語留学についてですが、派遣する外国人講師は、ある程度予定されているのか。

教育次長（管）： 現在、幼稚園や小学校に外国人英語助手を派遣してもらっているインタラックという会社から英語助手を雇い入れ、その外国人が同行することを計画しております。

栗原委員： 須崎市は、以前から受け入れのプログラムがあるということですが、内容は須崎市にまかせて、外国人講師は子どもたちと同じ立場でそのプログラムに参加するということになるのか。

教育次長（管）： 須崎市が以前から受け入れている土壌というのは、須崎市内で様々な体験活動を子どもたちがするというものです。そこに派遣して、その体験活動のなかで英語を使いながら、須崎市の文化交流をしていきたいという組み立ての事業となっています。

栗原委員： 英語がどこまで充実するのかですが、須崎市と文化交流をするとなると日本語だと思ってしまうので、そこにどうやって外国人がからんでいけるのかと思う。事業が英語留学となっているので、英語を通して体験するとなると須崎市と講師との事前の打ち合わせが必要になる。それがないと、ただの通訳としてついていくことになって、子どもたちにとって、英語を通して体験をしたという実感がもてないのではないかと思う。自分たちと一緒に外国人講師がプログラムを楽しんで体験して終わったとなってしまう。

英語留学といえば、私のイメージでは、英語しか使えない環境があって、体験するというイメージがあるので、そのあたりはどうでしょうか。

教育次長（管）： 危険な部分については、日本語での説明になるが、基本的には、バスの中など英語を使ったオリエンテーションを計画している。

英語漬けのような形で活動及び寝泊まりをALTと一緒にするといったことを考えております。

事前の打ち合わせの件ですが、事務局が事前に須崎市とどのような活動をどのようなプログラムで実施するかとの打ち合わせを行い、スムーズに進むように計画をたてたいと考えています。

栗原委員： 今ある須崎市のプログラムとすり合わせを行い、どういったものが可能かということを決めるのか。

教育次長（管）： 須崎市にあるプログラムを体験しますが、同行するのはノウハウを持ったインタラックの講師ですので、事務局とインタラックとのす

りあわせ、現地での文化の交流は事務局と地域との打ち合わせを行います。その体験活動を通じて、一日中英語にふれる環境を子どもに体験させて、最後には英語での受け答えができるようにしたいと考えています。

栗原委員： 人数はどの程度ですか。

教育次長（管）： 20名程度を予定しています。

栗原委員： そこに外国人講師は何人ですか。

教育次長（管）： 4人に1人の外国人講師を予定しており、きめ細やかな会話、寝食を共にできる形を想定しています。

栗原委員： なんとなく事業のイメージができました。とりあえず今年やってみるといことですね。

教育次長（管）： 1回限りということではなく、事業を見直す区切りは必要だと思いますが、継続的に実施していきたいと考えています。

栗原委員： いい内容のものを、継続して実施していただきたい。

谷口市長： げんキッズイングリッシュキャンプは、何年実施したのか。

教育次長（管）： 10年実施しました。

栗原委員： げんキッズイングリッシュキャンプは、抽選になるほど評判でしたね。今回の事業の費用負担はどうなるのか。

教育次長（管）： 宿泊・飲食・体験活動の実費相当の2分の1を考えております。現在の試算では、15,000円から20,000円程度を考えています。

小西委員： パソコン環境改善事業ですが、統合型校務支援ソフトを導入することによるメリットが書かれておりますが、事業費が25,000千円となっておりますので、会社ではどれぐらいのプラスアルファがあるのかという話によくなります。このソフトを入れることで、プラスアルファになる部分はあるのでしょうか。

学校教育課長： 統合型校務支援ソフトは、教師が職員室で行っている事務作業を一元管理できるというメリットがあります。生徒の名簿、出席状況や成績処理を日々蓄積することで、学期末に通知表などの際に自動的に処理されて、出力できるというものになりますので、事務作業がかなり軽減されるということになります。

教育次長（管）： 事業費については、ソフトだけでなくハードの更新も含めた額となります。

小西委員： 分かりました。これは全ての先生が使うということですね。

教育次長（管）： 教育教材を研究するパソコンについては、全ての先生が使用します。校務支援ソフトが入ったパソコンについては、成績処理等を行いますので、インターネットで情報が流出しないように別環境におき、担任の先生など特定の先生が使用します。

小西委員： そういった使い分けがあるということですね。  
パソコンが得意な先生と得意でない先生で違いが起ころうと思いますが、せつかくこういったものを導入するのであれば、全体的にスキルアップしていくことを期待します。

教育次長（管）： それでは、3協議事項（1）ア について、ご了解いただいたということでしょうか。

市長及び教育委員： はい。

教育次長（管）： 只今いただきましたご意見等を尊重し、令和2年度の事業を進めてまいります。

次に、4 報告事項（1）学校施設空調設について、（2）オリパラ・わくわくムーブメント事業について、を一括で事務局よりご説明いたします。

（学校施設空調設備について概要説明）

（オリパラ・わくわくムーブメント事業について概要説明）

教育次長（管）： ただいまの説明について、特にご質問等はございませんか。

谷口市長： 空調については、温度設定等は教育委員会が指示するのか。

教育次長（管理）： 学校との協議により、温度設定等の指針は定めております。しかし、学校の環境に応じて、学校独自で温度等の調整は可能となっております。

谷口市長： 来年からは、涼しい環境で勉強できますね。

西田委員： 空調ですが暖房も使用するんですか。

教育次長（管）： 暖房についても使用します。

西田委員： 指針で使用できる温度を設定すると、学校によっては使用できないところもでてくるのではないかと。

教育次長（管）： 指針では使用できる温度は設定せず、文部科学省が定めております温度を基準に空調を使用した際の温度設定として夏は28℃、冬は17℃という指針としております。ただ、体育の後や朝の寒い時などには温度設定を変えられるような流動的なものとしております。

西田委員： 分かりました。

小西委員： 空調が整備されたことで、夏休みや冬休みへの影響はあるのですか。

教育長： 今はございません。

教育次長（管）： 他に無ければ、報告事項（1）学校施設空調設について、（2）オリパラ・わくわくムーブメント事業についてはご理解いただいたということでもよろしく申し上げます。

教育次長（管理）： それでは、5 意見交換について説明いたします。

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。

これからの相生教育について、まず、各教育委員より所感をお聞かせいただきたいと思います。それから、市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと思いますと考えております。

それでは、萩原教育長職務代理より申し上げます。

萩原教育長職務代理： まず、先ほどの学校施設空調設備について、相生市では近隣の市町より先駆けて環境を整えていただいたことは、ありがたいという思いです。市長にもお礼を申し上げます。

来年度の重点施策をみると、この時代のニーズに合った施策を取り上げられているのではないかと思います。今年度についても先進的な取り組みをしていただき、大きな効果があがっているのではないかと考えている。

私は、前回の総合教育会議でも申し上げましたが、安心安全のまちづくりという観点で、最近、子どもたちを取り巻く事件や事故が多発していることから、大人の目を光らせることが大切であるという提案をさせてもらったんですが、今回、声かけ運動835推進事業については、教育長がおっしゃってありましたとおりに風土づくりが大事であると思う。これが運動ではなく、あたりまえにできる相生市になってほしいと思う。

その取り組み方ですが、私も現場にいたときに83運動というものをした経験がある。それは、朝8時にゴミ出し、3時に犬の散歩や買い物といったように何かのついでに子どもたちを見てくれませんかというように学校通信で呼びかけた覚えがある。その時も反応があって、取り組んでもらった覚えがある。自治会等も重要であるが、曜日によって帰宅時間が変わるので、学校にアクションを起こしてもらうことが重要だと思う。

私は4時が一番多くの子どもたちが帰るので、3時よりも4時がいいのかと思っていたが、昨日、放課後子ども教室の帰りの時間でもある4時に多くの子どもたちが保護者と一緒に帰宅しているのを見ました。これを見まして、その時間はこういった保護者の目があるので、3時でいいのかなと思いました。

これからも学校からの曜日による帰宅時間の違いの呼びかけなどをしていただいたり、青パトによる呼びかけを継続してもらったり、広報紙や会議のあいさつ等での啓発など、子どもたちを守るための大人の目を輝かせる意味でまちづくりの推進になったらいいのではないかと考えている。あまり構えずに、普通にできる取り組みになることを期待します。

教育次長（管理）： 次に、小西委員よろしく申し上げます。

小西委員： この10の施策を見たなかで、性善説と性悪説というものがあると思いますが、例えばこういったことをしてはダメですというのは、性悪説でこういったことを防止しましょうと明確な答えを求めます。企業は、明確な結果が必要な時は、性悪説に基づいて物事を決めがちですが、教育の中で

子どもたちと関わるなかで、性善説が非常に大事だと思います。こうあってほしいという思いから、こうしましょうと働きかけることで、気持ちよくスタートできるということがあると思う。そういう意味では、声かけ運動やオリンピック関連など、こういったムードにしていこうと行政・教育の場から発信するのは、非常にいいことだと思います。

ぜひ、今後も性悪説で物事を考えるのではなく、性善説で進めることをもっとやっていただければうれしいと思います。

進行教育次長（管理）： 次に、栗原委員よろしくお願ひします。

栗原委員： ケータイ・スマホについてですが、現状の相生の子どもたちは、どの程度ケータイやスマホを持っているのですか。調査をしたことがあれば、その結果をお願いします。

人権教育推進室長： 平成30年に行った小学校4～6年生、中学校1～3年生を対象にした調査結果になりますが、小学生が49.8%、中学生が61.9%となっています。平成28年に行った調査結果よりも小・中ともに所持率は若干増加しております。来年度実施予定ですが、所持率は増加している可能性があると考えております。

栗原委員： 若干増加したというのはどの程度ですか。

人権教育推進室長： 小学校で2%、中学校で4%が2年間で増加しております。

栗原委員： 学校園読書活動充実事業のなかで、ワンピースイングリッシュに関連した英語にふれられる図書の購入とあるが、中身を楽しませてあげるためにどのように活用されているのか。

学校教育課長： 委員おっしゃるようにFLTが子どもたちを集め、休み時間に図書室で読み聞かせをしている学校があります。これを広げていきたいと考えております。

教育次長（管理）： 次に、西田委員よろしくお願ひします。

西田委員： 相生市では、今までいじめの話聞いたことはない。今年は、他市で色々と教員の関係で問題がありました。狭い学校の中で同じ人がずっと一緒にいると、色々と摩擦等があると思います。外からだ学校内で起こっていることはわかりにくいことですので、教育委員会の中で以前いた学校の先生方の言動や態度を注視していただき、先生方も時代の流れで、毎年、課題

も増えて大変だと思うので、それぞれの学校や先生に対応してあげてほしいと思います。

次に伝統文化のことですが、古典の日本舞踊を教えているのが相生市ではないと聞いている。先日、新橋演舞場で新作歌舞伎の風の谷のナウシカを見に行ったが、多くの若者が来ていた。歌舞伎界は、若手がテレビ等に積極的に出て、若者を引っ張ってくる。私の日本舞踊は歌舞伎舞踊であり、家元もお客さんと呼んでいるので、流れる的に続いていくと思っているが、昔のように地方で多くの踊りの会があって、多くの子どもたちが習ってという時代ではなくなってくると思っているうちに、高齢化になっています。これからは、一人でも多くの子どもたちに古典の伝統的な踊りを見せてあげたいと思っているので、よろしくお願いします。

不安はつきないが、新しい方向を見ずに古典に執着したのが原因なのかなと思う。今は、若い人に踊りに向き合ってもらえない時代になってきていると思うが、見てもらうと好きになってくれる人もいるので、がんばっていきたいと思います。

教育次長（管理）： それでは、市長よろしくお願いします。

谷口市長： 私は、常々申しておりますが、「まちづくり」の基本は「人づくり」にあると考え、これまで教育施策に重点を置いた市政運営を進めさせて頂いております。

そういったなかで、相生市の今後の教育につきまして、私の考えを3点申し上げます。

1点目でございますが、子どもたちが夢や希望を抱き、学ぶことができる環境を整備していくことが大切だと考えています。

令和2年度は、小学校で新学習指導要領の完全実施の年度になります。確かな学力を身につけた子供たちを育成するために、教職員の皆さんが一層の指導力を発揮できるよう、また、新学習指導要領に基づき適切に対応できるよう環境の整備を進めていかなければならないと考えます。

加えまして、新学習指導要領でも実施される「外国語教育」に関連して、子どもたちに体験活動を通して楽しみながら活きた外国語を学ぶ機会を提供できるようなことを是非ご検討願いたく思います。

また、全国的に、子どもに関連する事件や事故が多く発生していますので、これまで取り組んでまいりました「市民さわやか挨拶運動」の強力な推進と、新たに進められようとしている「声かけ運動835」をはじめとした、地域での子どもの見守り活動の輪を拡充していくことが大切だと考えます。SNSなどによる犯罪被害防止のため、今も取り組んでいただいておりますが、子どもさんへの啓発活動が今以上に重要な取り組みになると考えます。

2点目でございますが、文化会館、体育施設などを活用した文化芸術、体育の振興についてであります。

文化会館には開館以来、非常に多くの方々に来館していただき、相生市の文化芸術・交流の拠点となっております。この賑わいを将来にわたり持続しながら文化芸術の振興を図っていくためには、幅広い世代の市民に親しんでいただける魅力ある事業展開を更にすすめていかなければならないと考えております。

体育の振興に関してであります。来年はオリンピック・パラリンピックイヤーでもあります。市民の皆さんがスポーツを楽しみながら健康づくりを行うという、今の流れを大切にしなければならないと考えます。

そのためにも、体育施設や設備の適切な維持管理と、さらに事業内容についても工夫をしていただきながら、市民の皆様がよりスポーツに親しんでいただけるような事業展開が望まれるところでございます。

3点目でございますが、市では総合計画の見直しを行っているところでありますが、これに合わせて、相生市の教育につきましても成果と課題を検証していただきながら、より一層、相生市の教育施策が充実したものになりますよう、中・長期的な指針をお示しいただければ、ありがたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

私は、市政運営を行ううえで、教育施策の充実は極めて重要だと考えております。

これまで、各教育委員の皆様のご尽力により、相生市では先進的で充実した教育の取り組みを行うことができ、大変ありがたく感謝をいたしております。

各委員の皆様が教育行政のみならず市政全般に対するご協力に、衷心よりお礼申し上げます。

今後ともよろしく願い申し上げます。

教育次長（管理）： ありがとうございます。各委員と市長の所感をお聞かせいただきました。

それでは、意見交換を行っていただきたいと思えます。

どなたからでも結構です。先ほどの協議事項、報告事項に関するご意見も含めよろしくお願い致します。

栗原委員： 835（ハチさんゴー）運動のネーミングで「さん」だけひらがなというのは、何か意味があるのでしょうか。

学校教育課長： 語呂というところもあるが、呼びかけの際に使いやすいという思いからです。

谷口市長： 萩原委員がおっしゃるとおり、防犯カメラだけでは不十分であり、大人の目・地域の目が必要だと思う。

西田委員： 子どもの声が聞こえないですね。田舎では特に子どもが少なくて、子どもの声が聞こえたら、逆にびっくりする場合があります。

栗原委員： 難しい世の中だなと感じます。今の若い親は、情報があふれ価値観がころころ変わっていくので、親としてやっていくのが大変だと思う。

先日、地元の幼稚園のクリスマスコンサートに行ったんですが、子どもの演奏が終わってもスマホで写真を撮るばかりで拍手がなかったです。

昔は子どもががんばったら笑顔で拍手だったのが、見るより撮るとなっているのに違和感を感じました。

何を基準に言っていたらいいのか分からない時代になってきたなと思いました。

谷口市長： 兵庫県では、移動式の能舞台を持っている。

西田委員： 歌舞伎は衣装やカツラ、地方さんが並んで、陰にはお囃子など人数が非常に多い。能は自分の衣装で面をつけて舞台に並んだ人が全てで、比較的人数が少ない。能舞台、狂言は人数が少ないことから学校等で見せることができるが、歌舞伎は人数が大がかりすぎてなかなか見せることができない。やはり、一度は見ていただきたいという思いがある。

教育次長（管理）： 今後の相生市教育に関し、ご意見をいただきありがとうございました。

今回いただきましたご意見を踏まえ、事務局といたしまして関係部とも協議を行い検討させていただき、更なる取り組みを進めさせていただきたいと考えます。

予算措置が必要な事項については、今後の予算に反映できるよう努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、本日の協議事項はすべて終了いたしました。

閉会にあたり浅井教育長よりご挨拶をお願いいたします

教育長： <挨拶>

教育次長（管理）： ありがとうございました。以上で令和元年度第2回相生市総合教育会議を終了いたします。次回は、来年度4月以降に開催予定となります。本日は、ありがとうございました。